

米原敦賀間鐵道建築景況(前卷ノ續) 在敦賀正員 千 種 基

第五 部分線路建築概況 予ノ從事セシ部分ノ建築概況ヲ報スル

ニ其ノ目ヲ左ノ條ニ分テ記載セントス

第一項 土功 第二項 橋梁

第一項 土功 川付ケ換 路付ケ換 土質 線路ノ位置

レテニングオール

此ノ部分線路ハ越南國敦賀郡麻生口村ヨリ始マリ同國同郡道ノ口村
絹掛川ニ終ル長サ三哩三十鎖四十リリンクナリ

線路測定及ヒ第五號切取リヨリ下絹掛川間ノ築堤及ヒ二三尺ノ小ガ
ルハルトノ如キハ此ノ部分成立ノ以前大抵出來セリ其ノ他ト雖ヒ築
堤切リ取リハ業ニ已ニ着手ナリタルモノ多シ

第一圖ハ部分ノ全截面ヲ示スモノナリ

第一號切リ取リハ在來ノ鹽津街道及ヒ田地ニシテ且ツ該街道ノ一方
ハ小山ナルカ故ニ之ヲ切リ下ケ道ノ付ケ換ヘアリ土質ハ礫砂層ニシ

テ築堤ニ用ユルニ極メテ宜シ

第二號築堤ハ溪流刀根川ニ懸ルヲ以テ少シク川ノ付ケ換ヘアリ又川

ニ面スル堤腹ハ保レテニンレンゴキール壁ヲ作レリ

第三號切取りハ粘土質ノ砂土ニシテ最底ニ至リテハ少シク岩石出デ
タリ

第四號築堤ハ一方ハ刀根川ニ沈ミ一方ハ鹽津街道ヲ横切ルヲ以テ第
一ニ川ノ付ケ換ヘアリ川底ハ盡ク岩石ナリ

不幸ニノ堤根ノ處ハ「グラベル」ナリ又街道ヲ付ケ換ルニ岩石ノ山道ノ
傍ニ屹立スルヲ以テ之ヲ切り取り此ノ處ニ道ヲ付ケ換ヘタリ而シテ川
底ヨリ線路築堤ノ頂上マテ高サ三十尺餘モアルガ故ニ堤礎ノ川ニ沈
メル處ニ高サ十尺ノ多サルチセーシド、レターニング、キール積保壁ヲ築キ又路傍ニモ壁キールノ築造アリ
第三號ノ切取りハ細礫砂層ニシテ全坪四分ノ一ハ「トラカイト」質ノ岩
ナリ

第四號ノ切取リハ全坪三分ノ二ハ「トラカイト」質ノ岩石ニシテ他ハ「サ
ーフェース、モールド」ナリ

第五號切取リハ粘土ニ細石ノ混入シタルモノニシテ堅キコト三和土
ノ如シ之ニ加フルニ處々大石ヲ混入セリ全路ノ「レターニング、オール」
等ニ用ヒシ石ハ多クハコレヲ割テ使用セシナリ

第一號ヨリ第六號ニ至ル築堤ハ頂上ノ巾拾六尺夫ヨリ九號マデハ拾
五尺ナリ又切り取リハ廣キモノ二十三尺狭キモノ十七尺ナリ惣テ築
堤斜面ノ勾配ハ一割半ナリ又切り取リハ土質ニ依リテ種々アリ

第七號築堤ノ傍ラニ川付ケ換ヘノ大土功アリ幸ニシテ石材許多ヲ堀
リ出タセシチ以テ堤防斜面ノ壁ハ十分ナル石ヲ用ユルヲ得シト云
フ此ノ工事未タ部分ノ成立セザル前ニ落成ス

惣テ保壁ハ無規並ベノ蠻積石ニシテ漆喰ヲ用ヒス又堡背ハ割

栗石ノ大片ナリ

第二項 橋梁及ヒ暗溝假桁

第一號ニ切取ニ三尺ノ「オーブンカルバルト」開渠アリホルメイシヨン、リアル造作水準ヨリ三

尺ノ下ヲ基礎トナス地質泥沙層グラベル憑アバットメント臺ノ巾三尺長サ拾六尺外面ハ

作層コイルスド、ラツアル、メイリンリ石積保背バツキンク石ナリ其供用セシ「モルタル」如左

外面ニ用ヒシモノ

石灰 一 但シ「スレーキ」スル ボートランド、セメント 一

砂 六

保背バツキンクニ用ヒシモノ

石灰 一 砂 三

第二號築堤ニ三尺ノ煉化弓形陰渠アリ憑アバットメント臺ハ石積ニシ弓形ハ煉化

石ヲ用ユ石ノ積方ハ前ニ同シ又弓形ノ厚サハ九吋ナリ

煉化石ニ供用セシ「モルタル」左ノ如シ

砂 六 石灰 一 ボートランドセメント 一

以下截面圖上ニ散見スル三尺四尺等ノ開渠陰渠ハ大抵同一ノモノニシテ唯々臺礎土質ニ從ヒ高低ニ差違アルノミ故ニ一々記セズ

第三號四號五號築堤中ニアル刀根川ニ架セシ長サ三十尺ノ橋梁ノ如キハ未タ他線ニアラザル所ノモノナリ乃チ第二圖ハ第三號築堤中ニアルモノヲ示セシモノニテ他ハ之レト畧同一ナリ

此ノ橋梁ノ異ナルモノニアリ第一ニハ桁ヲ造作水準ノ勾配ニ從ハシメンガ爲メ橋臺ノ床石ニ勾配ヲ付ケタルコト第二ニハ橋臺ノ高サ三十尺以上モアレ共翼壁ヲ全ク廢シタルコト乃チ第三號ニアルモノハ半徑十五鎖ノ曲路ニシテ勾配八十二分ノ一ノ處ニアリ臺礎土質ハ岩石ナレハ之ヲ段階ニ切り平ラケリ第四號ニアルモノモ土質ハ岩石ナリ第三號ニ比セハ橋ノ高サ少シク低シ第五號ニアルモノハ一方ハ岩石ニシテ水上ヨリ十尺餘モ突出スルヲ以テ之レカ頂上ヲ切り平ラゲテ臺礎トナセリ

右三橋ハ桁ハ勾配ニ從ヒ且ツ橋臺モ甚タ高キガ故ニ石積ニ注意ヲ要
 スルモノニシテ石ハ大抵一本毎ニ之ヲ顯ヒイダ歐石ニ使フコトニ注意セリ
 又隅石コイシハ三尺ノ長サアルモノヲ用ヒ破層石ノ積方ニナシ他コイルストラツハ作層ラツ變
 石積ブルナリ又保背バックキングハ變石ラツアルナリ其供用セシ「モルタル」左ノ如シ

臺礎ヨリ高サ六尺ニ至ルマテ内外トモ

「ポートランド、セメント」

一

砂

三

之レヨリ上ノ外面ハ前ノ如ク内面乃チ保背バックキングニ用ヒシモノ

石灰

一

砂

二半

第三圖ハ第六號築堤中ニアル十尺ノ間渠ヲ示スモノニシテ十尺十二
 尺ノ橋ト雖モ大同小異唯タ土質ニ從ヒ多少高サニ變換アレハ從ツテ
 厚サニ厚薄アリ一々縮圖ヲ作ルモ繁雜ナレハ贅セス石積ハ外面コイルスト作層
 變石ラツアル保背バックキングハ變石ラツアルナリ又其供用シタル「モルタル」ハ

外面

「ポートランド、セメント」

一

砂

三

「バツキング」石灰

一

砂

三

正田川絹掛川二橋ハ縮圖未タナラス且ツ記載ヲ要スルモノ多ケレハ他日別ニ報スル所アルベシ

錢桁木桁トモ本桁ノ出來セザルモノハ假桁ヲ架セリ三尺前後ノ渠ハ唯タ枕木スリバヲ縱テニ渡シ軌條レールヲ架シタルノミ十尺前後ノモノハ末口一尺一二寸ノ丸松材ヲ架シ中央ニ鳥井ヲ建テ、支柱トナス

第三四五號ニアル三十尺ノ高橋ハ支柱ヲ置ク能ハザルヲ以テ兼テ橋

臺中央起スプリング、コールス初列ノ面取石ニ三箇ノ突出シタル石ヲ作り之ニ枕木ヲ置キ

夫レヨリ枕材ストラットヲ建テ桁ヲ三箇ニ分ツテ載量ヲ分タシム假桁ハ松材ニ

シテ徑一尺半位ノ丸太ナリ此ノ三橋ハ假桁ノ斜デフレクシオン勢試驗テストアリ其ノ法

軌條レール五十本ヲ橋上ニ置キ又五十本ヲ小低車トラックニ積ミ之レニ鎖フックヲ付ケ捲

素轆イン轆チヲ以テ橋上ヲ引キ其ノ橋ノ中央ニ來レル時ノデフレクシオン

ヲ別ルニ四分ノ一インチナリ依テインシンチ通過セシムルニデフレ

クシヨン^二又四分ノ^一「インチ」ナリ三橋共ホゞ相ヒ同シ尤モ桁ヲ懸ケル
 前大略ニ破碎荷力ヲ算定シ桁ノ用ニ適スルヤ否ヲ定メリ當時用ヒラ
 ル、瀛^{イン}鐘^{シツ}車ハ目方凡ソ二十「トン」也
 以上ハ唯々大畧ヲ記スルノミ疏^ド水^{レイ}溝^{イン}等ノ詳細ニ至ツテハ他日又詳明
 ニ報道スル所アルベシ

十四年六月

○本會記事

主記 中野初子

十一月二十三日例會ヲ京橋區日吉町共存同衆館ニ於テ開ク幹事安永
 義章君會長席ニ就キ先ツ報シテ曰ク本月ヨリ已後會場ハ本館ニ定メ
 ントノ諸君ノ同意ヲ得テ茲ニ本日ノ例會ヲ開ク又規則第二條中工部
 大學校トアルハ京橋區日吉町共存同衆館ト改マリタリト次ニ役員滿
 期ノモノヲ改選センガ爲メ正員諸君へ投票ヲ望メリ當選者左ノ如シ

副 幹 事 原 田 虎 三 君